

2023年度 子ども第三の居場所 コミュニティモデル クルルウス 報告書

特定非営利活動法人くるくるネット





目次

はじめに

① スタッフの紹介

② 開所式の様子

③ 子ども食堂と勉強会

④ 食材配布

⑤ お泊り会

⑥ お出かけ会

⑦ レクレーション

⑧ その他

⑨ 今後に向けて、課題など

⑩ 地域の地域食堂・子ども食堂の紹介

⑪ くるくるネットの紹介

⑫ 子ども第三の居場所とは

おわりに

スタッフ紹介

スタッフ紹介

クルハウスでは現在、学生・社会人の13名がスタッフとして活動しています。
クルハウスをより良いものに出来るように、一致団結して頑張っています。
ここでは、個性豊かな13名のメンバーをご紹介します！

理事長 鳥山 晃



趣味：ドライブ・PC・温泉巡り
特技：長距離の運転

令和2年に開設したクルハウスが今回再出発となりました。
みんなの居場所としてクルハウスを運営していきたいと思ひます。

江口 誠一

趣味：筋トレ
特技：カロリー計算

多くの人を楽しんでいる居場所を作りたいと思ひます！



小笠原 日向子

趣味：バイク
特技：BBQの火起こし

どのような理由であれ、誰かに少しでも必要とされる場所にしたいと思ひます。



三田 ゆきの

趣味：エレクトーン
特技：弓道

子どもたちにとって心地良い場所になる様全力を尽くします！



中尾 笑生

趣味：サウナ
特技：野球

子どもたちの笑顔を生み出すためにとにかく汗かきます！



佐野 潤樹

趣味：動画作り・映画鑑賞
特技：バイオリン演奏

「クルハウスに行って良かった」と思えるようにスタッフとして頑張ります！



富山 浩恵

趣味：音楽・写真
特技：福祉・マッサージ系
分からない事も多いですが、少しでも役に立てる様に頑張りたいです。



佐藤 奈々

趣味：読書
特技：揚げ物

楽しい場作りを提供します！



佐伯 瞬

趣味：ドライブ
特技：剣道

笑顔の絶えない居場所を作る様に頑張ります！



村上 愛翔

趣味：漫画・音楽鑑賞
特技：歌うこと

みんなが来やすい場所を作るように頑張ります



三浦 由美子

経理・サポート等裏方で頑張ります



小林 崇文

システム開発等裏方で頑張ります



高見 陸

7月から加わりました頑張ります



はじめに

令和5年度、子ども第三の居場所コミュニティーモデルに採択され、当プログラムは地域社会において有益な成果を上げました。

居場所は多くの参加者を温かく迎え、子供たちが安心して集い、成長する場となりました。

当プログラムは、子どもたちが育ち、発展するための適切な居場所を提供するという目的に共感を覚えたコミュニティーモデルとして採択されました。このモデルを通じて、地域社会における子どもたちの健全な成長と社会的な結びつきの強化が期待されています。

居場所では、多くの子供たちが参加し、安心して交流できる環境が整備されました。子どもたちは様々な活動やプログラムに参加し、自らの能力や興味を発見し、伸ばすことができました。また、地域の協力やボランティアの支援により、プログラムはより一層充実したものとなり、地域全体の結束を強化しました。

今後の展望や改善点についても検討し、地域社会への更なる貢献を模索してまいります。報告書全体を通じて、地域社会への感謝の気持ちを述べていく所存です。





開所式

5月27日に開所式が行われました。

開所式には「クルハウス」に通う30名近い子供たちだけでなく、空蘭市の行政関係者や議会議員など約50名近い方々が参列しました。

理事長の鳥山晃は感謝の意を表し、「くるくるネットの活動を通じて、地域の課題を解決していきたい」と述べました。

また、空蘭市の青山剛市長や支援者の方々から祝辞が贈られ、子供たちによるテープカットのセレモニーや太鼓演奏が行われました。

「クルハウス」は、子供たちが安心して過ごせる場所を提供することを目的としています。地元空蘭工業大学の学生たちがお兄さんやお姉さんとなり、学習支援や子ども食堂、お泊り会などのイベントを企画・運営しています。採択を受けて活動日数を拡大し、平日の金曜日と土曜日、第2・4日曜日に活動を行います。

「クルハウス」は常勤スタッフ1名、非常勤スタッフ2名、学生スタッフ7名で運営され、地域全体で子供たちの成長を見守る場所を目指しています。



子ども食堂と勉強会

子ども食堂は毎週土曜日に開催され、通常は約20人前後が参加します。イベントは午前10時から午後2時までの時間帯に行われ、参加者は食事の前後に遊ぶことができます。この子ども食堂は、地域の子供たちに無料の食事とともに楽しい時間を提供することを目的としています。食堂では、子供たちが一緒に食事をし、交流を深める場として機能しています。土曜日のイベントでは、子供たちが食べるだけでなく、遊ぶことで友達とのコミュニケーションを図ります。食事の提供だけでなく、社交的な場としての側面も大切にされています。

一方で、勉強会は金曜日と日曜日に開催されています。金曜日の勉強会は午後5時から午後7時まで行われ、日曜日は午前10時から午後13時までの時間帯に実施されます。これらの勉強会では、子供たちは個別に指導を受け、授業の理解が難しい部分について質問やサポートを受けることができます。

勉強会ではマンツーマンの指導が提供され、教育的なサポートが行われます。授業や宿題について理解が不足している場合、大学生スタッフが個別に対応し、子供たちがスムーズに学習を進められるようにサポートしています。これにより、子供たちは学業の理解を深め、自信をつけることが期待されます。



食材配布

毎月1回行われる食材配布は、地域の経済的な課題に対処し、約20世帯前後に約2000円分の食材を提供しています。この配布プログラムは、物価高や経済的な苦境にある家庭に対して経済的な負担を軽減する手段として大いに役立っています。提供される食材には、カップラーメン、レトルトごはん、お菓子などが含まれ、利用者が手軽に食事を摂ることができます。

地域住民からのフィードバックによれば、食材配布は多くの人にとって大変助かり、生活の一翼を支えているとの声が寄せられています。物価高や経済的な厳しさが続く中で、この支援は家庭にとって心強い存在となっています。配布される食材が家計の節約に寄与し、安心して食事を確保できることで、生活の安定感が向上しているとの意見も多く聞かれます。

興味深いことに、食材配布プログラムが子ども食堂の利用に繋がるケースも増えています。経済的な支援が食材だけでなく、地域コミュニティの中で提供されるサービスに広がりつつあることを示しています。食材の提供が家庭の経済的負担を軽減し、その一環として子ども食堂を利用する流れができあがっています。これにより、地域全体で子供たちが健やかに成長できる環境が整備されていることがうかがえます。



お泊まり会

夏のお泊まり会では、バーベキューやテント宿泊など、自然の中での活動が特徴です。子供たちは新しい友達と協力してキャンプの様子を楽しみ、普段の日常から離れた体験を通じて新たな気づきを得ることができます。このイベントは、自然と触れ合いながらコミュニケーションスキルやチームワークを養う機会となっています。

冬のお泊まり会では、室内でのアクティビティが中心です。例えば、カレー作りやおやつづくり、映画鑑賞などが行われます。子供たちは料理を通して協力し合い、おいしい食事を共に楽しむことで、チームワークや調理の楽しさを体感します。映画鑑賞では感動や笑いを共有し、親睦を深めることができます。

春のお泊まり会では、シチューづくりやおやつづくり、映画鑑賞などが企画されています。これにより、子供たちは異なる季節の特色や食材の楽しさを学びながら、同時に友情や協力の重要性も理解しています。イベントを通して、子供たちはクリエイティブな活動や協力プロジェクトを通じて成長し、地域の結束を深めることが期待されています。

総じて、お泊まり会は地域の子供たちにとって、普段の学校や家庭環境では得られない貴重な経験を提供しています。



お出かけ会

11月11日に行われたお出かけ会は、地域の子供たちにとって特別な一日となりました。この日、バスを借り切り、洞爺湖への日帰り旅行を企画しています。洞爺湖では様々な見どころがあり、子供たちは新たな発見や冒険を楽しむことが期待されます。

イベントのメインのひとつは、昭和新山熊牧場の訪問です。熊牧場では、大自然の中で生息するクマたちとの交流が待っています。子供たちは動物たちとのふれあいを通じて、環境保護や動物への理解を深めることができます。

また、火山科学館の訪問もプログラムの一環です。ここでは有珠山の火山活動に関する学びが楽しめ、子供たちは科学の不思議な世界に触れることができます。実際の模型や展示物を通じて、地球の驚異的な仕組みを理解し、自然の不思議に興味を持つことが期待されます。

最後に、レークヒル・ファームの訪問が行われます。ここでは農場直産のアイスクリームを食べ、動物たちと触れ合ったりすることができます。農場の活動を通じて、地元の食材や農業に対する理解を深め、持続可能な生活への関心が広がることでしょう。

このお出かけ会は、子供たちにとって新しい体験と学びの場となり、地域の結束を深める素晴らしい機会となりました。



レクリエーション

12月9日、室蘭工業大学体育館で開催されたレクリエーションは、絆を深め、楽しい時間を提供する素晴らしい機会でした。このイベントでは、借り物競争、風船バレー、そしてビンゴゲームが用意され、広い体育館内で参加者たちは思う存分に活動しました。

借り物競争では、協力して課題をクリアする中で、チームワークやコミュニケーションスキルが向上しました。笑顔や感動が広がり、参加者たちは困難を乗り越えながらも協力の大切さを学びました。

風船バレーでは、大きな風船を使った独自のルールで試合が行われました。子どもたちはユニークな競技に興奮し、楽しい時間を過ごしました。

また、ビンゴゲームでは、運と戦略が絡む要素が参加者たちを引き込みました。全員がワクワクしながら番号を待ち、ビンゴを達成する瞬間は、運の絶妙なバランスが生み出す喜びでした。このゲームを通じて、競争心や協力が芽生え、絆が一層深まりました。

室蘭工業大学体育館の広いスペースを有効に活用し、思い切り走り回りながら、笑顔と笑い声に包まれたひと時を共有しました。このレクリエーションは、コミュニケーションを豊かにし、楽しみながら絆を深める素晴らしい機会となりました。



その他

今年度、当施設ではいくつかの新しい取り組みを実施しました。

まず、日鋼看護学院の生徒の実習生を受け入れることで、子ども食堂の実践経験を提供しました。これにより、学生と当施設双方が新たな知識と視点を得ることができました。

次に、企業との連携を深め、具体的には遊技事業店と協力しました。この協力により、地域企業とのパートナーシップを構築し、地元コミュニティにおいて一体感を醸成する一助となりました。企業の支援や提携により、当施設は新しいリソースの取得やイベントの実施などで多岐にわたる利点を享受しました。

そして、常連の仲間が遠方に引っ越すことが判明した際には、感謝と別れの気持ちを伝えるためにお別れ会を開催しました。このイベントは、一体感を高めるとともに、遠くへ旅立つ仲間に対するサポートとして共有され、コミュニティ全体に温かな影響をもたらしました。

これらの新たな取り組みは、地域との連携や異なる分野との協力を通じて、当施設のサービス向上に寄与しました。

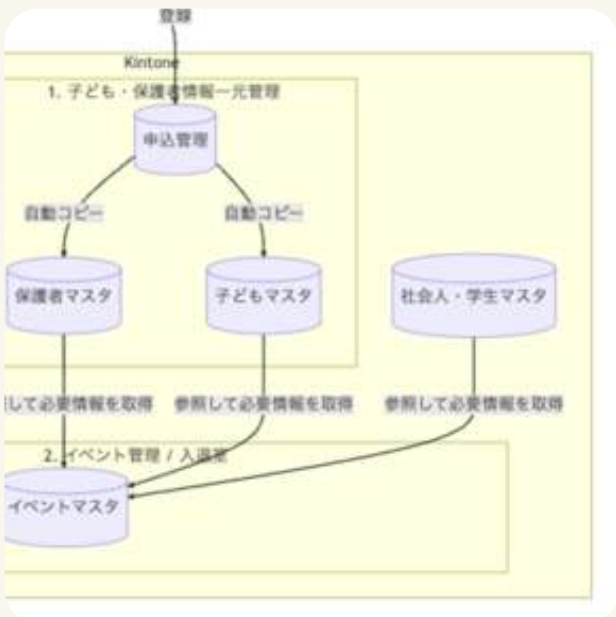


今後の課題など

今後の課題として、まず挙げられるのはボランティアの確保です。1日に約20名の利用者に対応するためには、十分な数のボランティアが必要です。ボランティアの積極的な参加を促進するためには、地域社会や学校などと連携し、ボランティア活動の重要性ややりがいを広くアピールする必要があります。また、ボランティアにとって働きやすい環境や柔軟なスケジュールの提供も重要です。適切なリーダーシップやコミュニケーションを通じて、ボランティアのモチベーションを維持し、定期的なトレーニングや感謝の表明も行うことが求められます。

次に、システム構築の維持が重要な課題です。利用者が増加するにつれ、システムの管理と運用も効率的に行う必要があります。システムのアップデートや新しい機能の追加、セキュリティの向上など、利用者にとって便利で安全な環境を提供するためには、システムの継続的な改善が求められます。これには適切な予算と技術者の確保が欠かせません。

最後に、広報活動の充実も重要な課題です。SNSや他のデジタルメディアを積極的に活用し、施設やサービスの魅力を広くアピールすることが求められます。適切な広報戦略により、ボランティアの募集や利用者の増加が期待できます。



子どもの居場所クルハウス **無料**

金・日曜日は学習支援と希望者に軽食を配布し、土曜日は遊び支援と子ども食堂を行います。

対象 学習支援のみ小学生～高校生

日時 毎週金曜日 17:30～19:30

毎週土曜日 10:30～14:30

第2・4日曜日 10:00～13:00

会場 クルハウス (知利別町2-22-31)

料金 子ども食堂を利用する場合

大人200円、大学生以下無料

申込方法 各前々日まで、電話またはLINE (@081svllb) で

室蘭市内の 子ども食堂 地域食堂の紹介

- ① えがお食堂
- ② コナトウス
- ③ うれしば食堂
- ④ なかよし食堂

えがお食堂

「えがお食堂」は開設から丸3年を迎え、新型コロナウイルスの影響にもかかわらず、地域の温かな結びつきを築く不可欠な存在となっています。

コロナ禍では感染対策としてパーティションや使い捨て食器の導入を行い、対面での食事提供を継続しました。現在も人手不足と衛生対策のため、使い捨て食器を利用しています。これにより、食堂は地域のニーズに柔軟に対応し、安全な環境を提供しています。

運営母体である室蘭更生保護女性会は高齢化に伴い減少傾向にありますが、食堂は17人のボランティアと清水丘高校の生徒によって支えられています。ボランティアメンバーは半年ごとに調理スタッフを交代し、ノウハウを維持。今後も世代交代を進めながら、持続可能な運営を目指しています。

「えがお食堂」では、活動日に子どもたち、高校生、高齢者が一堂に集まり、食事や交流の場となっています。スタッフの一人が見た見えない貧困に気づき、実用的な食材も提供。地域の課題に真摯に向き合っています。食堂は子ども食堂に留まらず、地域全体の交流の場として機能しており、貧困の見た目では判断できない現状に対処しています。

現在の参加者割合は大人と子どもが半々で、高齢者も一人で暮らす中で足を運ぶ姿が見受けられます。この食堂は単なる子ども食堂を超え、地域全体の交流の場として機能し、貧困が見た目でわからない現状において、子どもと高齢者が共に食事を共有できる環境を提供し続けることが目標です。



コナトウス

2023年に空蘭市に開設された「コナトウス」は、ラテン語で「自分らしく自分を高める力」という意味を持つ施設です。主に地域の中高生が集まり、勉強や食事、挑戦の機会を提供する場所として注目を浴びています。

「コナトウス」は地元のリフォーム会社や空蘭工業大学建築学科の学生たちが協力して行ったリフォームによって生まれました。また、施設内の備品やお菓子は市内の企業から提供されており、スタッフには地元の高校生や大学生が参加して施設の運営に携わっています。

利用者は主に中高生で、1人あたりの滞在時間は3~4時間ほどです。平日には約10人前後が利用し、月に累計200人ほどが「コナトウス」を利用しています。子どもたちはボランティア活動に参加することで無料で食事をすることができ、大学生は1食300円、大人は1食1000円（寄付金込み）で食事を楽しむことができます。試験前には中学生が集まり、学校や学年の壁を超えてお互いに教え合う様子も見受けられます。

「コナトウス」は東空蘭駅前のビルで活動し、交通の要所でありながら気軽に立ち寄れる場所として地域に貢献しています。初めは居場所づくりの構想だったが、

「地元の美味しい飲食店を知らないまま出て行ってしまうのは勿体無い」との思いから、地元の美味しい飲食店と連携し、子ども食堂としても運営されています。

高校生が中心の企画会議が週1回開催され、自らアイデアや挑戦したいことを提案しています。スタッフは責任を取り、予算を獲得するのが大人の仕事。安心感と安全な環境の元で新しいことに挑戦できる場所を提供したい。世の中の不十分なところをつないでいくのが、我々の世代がやるべきことと語っています。



ウレシバ食堂

「ウレシバ食堂」は新型コロナウイルスの影響で大きな変革を遂げ、厨房から漂う温かな香りが80人以上の来場者を魅了し、賑やかな雰囲気醸し出しています。特に、併設する保育園の卒園児たちが多く、子どもたちが主役の場となっています。

コロナ禍の中でも活動を続け、当初はテイクアウトも行っていました。現在は対面での食事提供に戻し、食事前後には子どもたちの遊び場も整備。高校生と子ども、高齢者との交流が活気あるコミュニティを形成しています。口コミを通じて新しい仲間が集まり、地域社会に欠かせない存在となりました。

運営は地域のボランティアスタッフによって支えられており、70代以上の多くのスタッフが参加。清水丘高校からのボランティアも毎月約10人が協力しています。うれしば食堂は他の子ども食堂とも連携を図っており、市議会での意見交換からLINEグループを形成。しかし、連携の課題として、会場や持っているものが異なることが指摘されています。

将来的な目標と課題として、資金面でのサポートが不可欠であり、特に柔軟な運営が可能な資金の必要性が強調されています。活動を通じて地域への愛着と交流が深まり、将来的には高校生や大人になった子どもたちが戻ってくる場所になることを願っています。



なかよし食堂

「なかよし食堂」は7年目を迎えたが、新型コロナウイルスの影響で大きな変革が迫られ、地域の高齢者メンバーが心を寄せ、温かいコミュニティが形成されています。

コロナ禍では従来の対面での食事提供から弁当への切り替えを余儀なくされ、現在は予約制で100食までの提供が行われています。高齢者メンバーが多いため、感染リスクを最小限に抑えるための努力が欠かせません。弁当の提供だけでなく、メンバーや通う人からのリサイクル品が支援され、必要な人が持ち帰っています。

運営体制は70代から90代のメンバーが中心で、母子会や町会との連携を重視し、将来的には母子会に活動を引き継ぐ計画が進行中。代表はスポンサー集めにも力を入れ、企業や団体への訪問を通じて支援を拡大しています。市の補助金は食材に使えない点に悩む中、市議会での意見交換を通じて市との連携が進んでいます。

「なかよし食堂」は空蘭市内で長い歴史を持つ子ども食堂で、子ども食堂の増加に伴い、若い世代が活動に参加するようになりました。代表は貧困対策を重視し、地域との結びつきを深めるために月例の寄付や「黄色いレシート」の取り組みを通じて支援を受けています。

他の場所では町会からの補助を受け、対象エリアを限定することで食材の過不足を解消し、必要な人々に支援を提供しています。代表は「貧困対策が一番の思い」と語り、なかよし食堂は地域社会に温かな影響を与えながら、共助の輪を広げています。



特定非営利活動法人 くるくるネット

特定非営利活動法人くるくるネットは、2004年5月21日に北海道室蘭市にて設立。地域のITを推進しようと、初心者向けPC教室・むろらんIT勉強会・インターネット安全教室の実施・各種まちづくり活動への参加な様々な活動を行ってきました。若者へのICT支援を行っていく中で見えてきたコミュニケーションや生活習慣の課題から、「地域の連携」「子どもの健全育成」も必要だと考え、居場所事業へと発展しました。2021年より、子どもの居場所事業および放課後等デイサービス事業を開始し、子どもたちの支援を行っています。「くるくるネット」とは、いろんなものが“くるくる”と回れば良い世の中になると思い名付けました。設立当時の“情報格差の是正”“地域情報化が街を活性化する”ということから更に一歩前進し、“社会的弱者へのICTの支援”をテーマに包括的な支援を実施しています。



「子ども第三の居場所」とは

「子ども第三の居場所」はすべての子どもたちが将来の自立に向けて生き抜く力を育むことを目的として、日本財団が中心となって2016年より全国に開設しています。「子ども第三の居場所」では、特にひとり親世帯や親の共働きによる孤立や孤食、発達の特性による学習や生活上の困難、経済的理由による機会の喪失など、各々のおかれている状況により困難に直面している子どもたちを対象に放課後の居場所を提供し、食事、学習習慣・生活習慣の定着、体験機会を提供しています。現在全国に162ヶ所設置され、全国500拠点の開設を目指しています。

(2023年4月末時点)



おわりに

この助成金報告書の締めくくりに際し、心より感謝の意を表明いたします。スタッフをはじめ、関係者の皆様には大変お世話になりました。特に、日本財団や空蘭市、空蘭市教育委員会のご協力には深く感謝いたします。皆様の温かなサポートに支えられ、様々なイベントを開催でき、新たな課題にも取り組むことができました。これらの経験を通じて、地域への貢献と発展のための努力を続けていく覚悟であり、今後も皆様と共により良い未来を築いていけることを期待しております。改めて、誠にありがとうございました。

特定非営利活動法人くるくるネット
理事長 鳥山 晃



所在地：

〒050-0076 北海道室蘭市知利別町2-22-31

対象者：未就学児、小学生、中学生、高校生を中心

開所日時：

金曜日 17:30～19:30

土曜日 10:30～14:00

日曜日（第2・4）10:00～13:00

拠点HP：www.kuru2.net

Twitter <https://twitter.com/kuruhouse2021>

Instagram

<https://www.instagram.com/kuruhouse2021/>





特定非営利活動法人くるくるネット